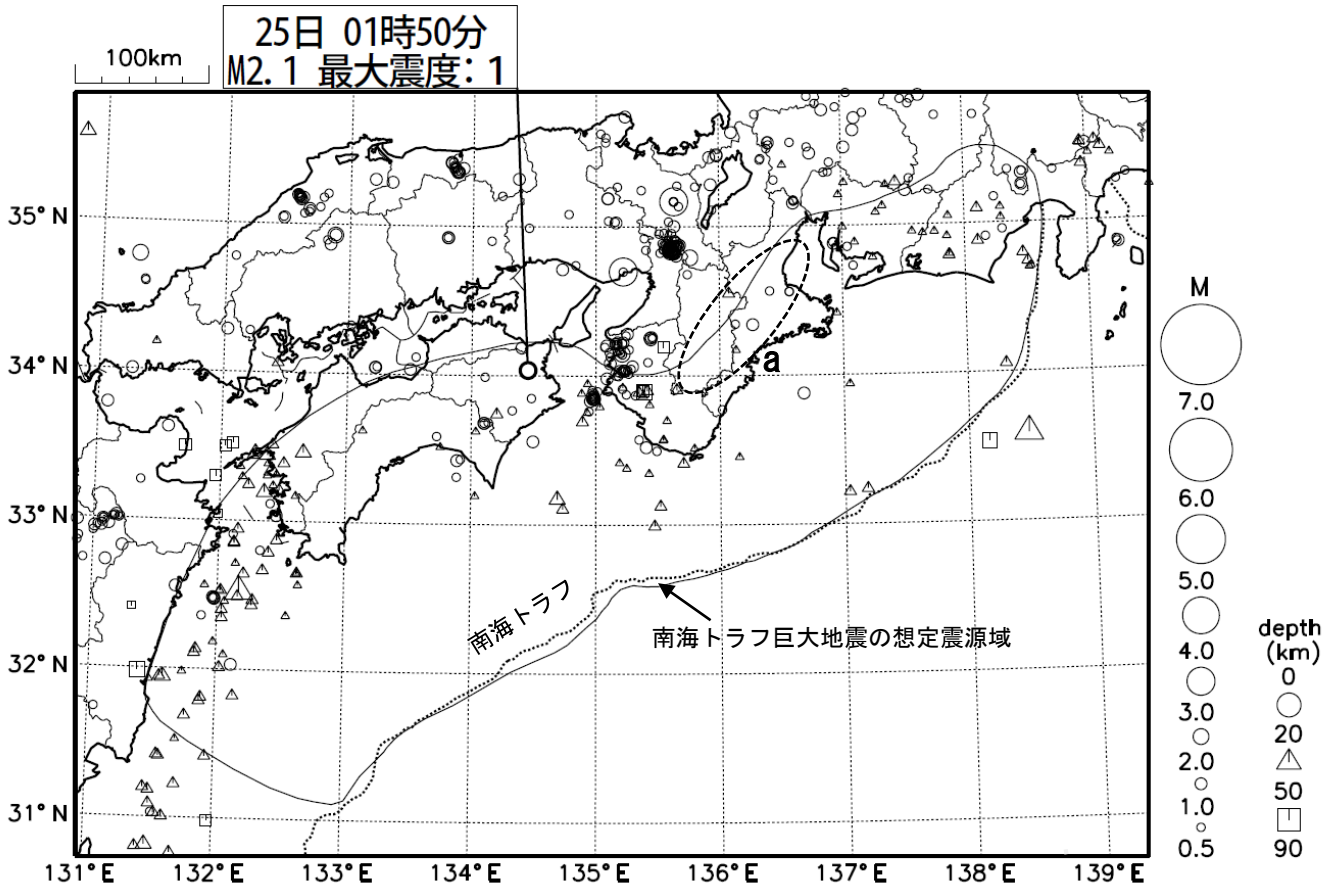


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 39

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年9月21日～9月27日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M \geq 0.5、震源の深さ0～90km）。

[概況]

19日頃から、奈良県から伊勢湾付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生していると推定される。

[主な地震活動]

・特に目立った活動はなかった。

[主な深部低周波地震（微動）活動^{*1}と地殻変動]

[領域a]18日以降、奈良県から伊勢湾で、深部低周波地震（微動）を観測している。18日に奈良・三重県境付近で始まった活動は次第に北東へも広がり、22日以降は三重県中部から北部、26日以降は伊勢湾でも活動がみられる。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、19日頃から周辺に設置されている複数のひずみ計^{*2}に変化が現れている。これらは、プレート境界深部において発生している短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が高くない深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：産業技術総合研究所、気象庁のひずみ計。